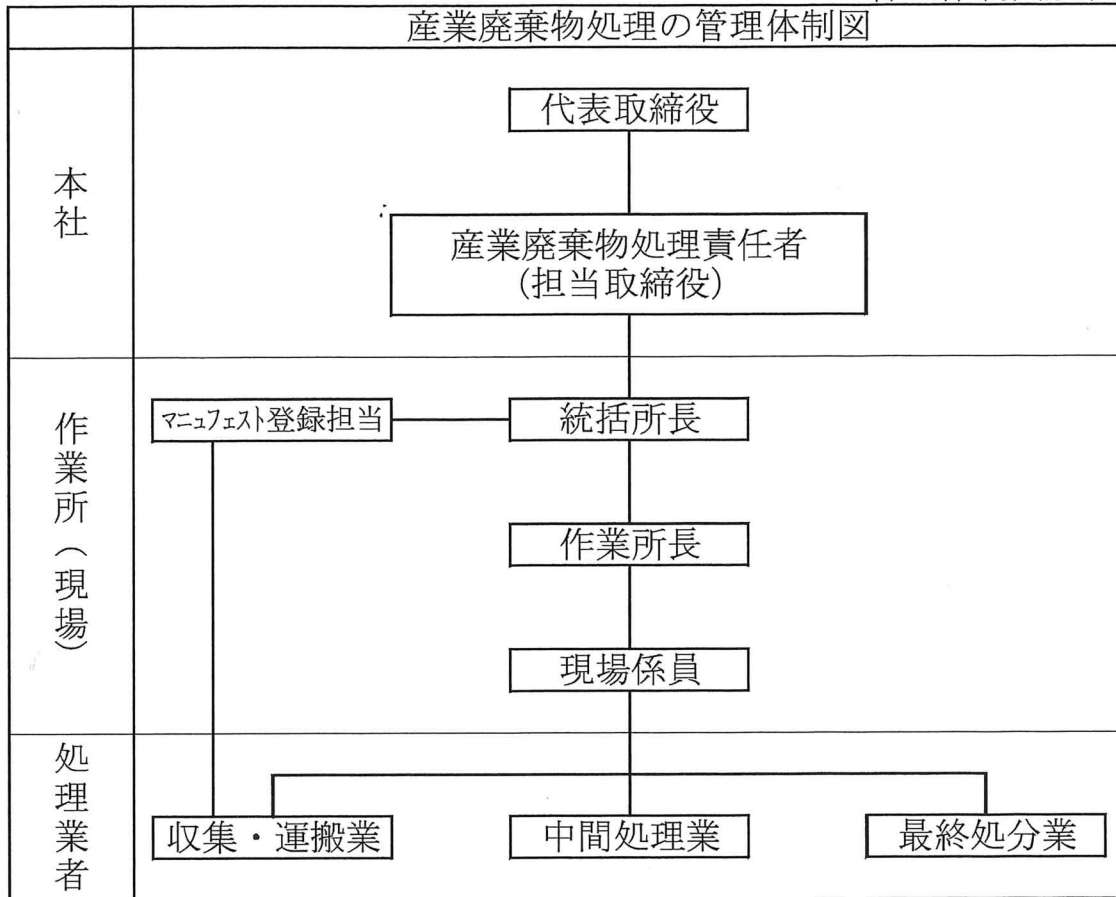


様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
2023年6月26日	
西宮市長 様	
提出者 住 所 大阪府大阪市中央区南船場1丁目18番11号	
氏名(法人にあつては名称及び代表者の氏名) 株式会社プレジオ 代表取締役 上山 祐平	
電話番号 06-6271-5081	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社プレジオ 西宮市管轄事業場
事業場の所在地	西宮市管轄区域内
計画期間	令和5(2023)年4月1日 から 令和6(2024)年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	06総合工事業
② 事業の規模	333,978万円(2022年4月~2023年3月)
③ 従業員数	157名(2023年5月時点)
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・がれき類(コンクリート塊) →再生処理業者に委託し、再生砕石として再資源化をする。・その他品目→中間処理業者に委託する。



産業廃棄物処理【令和4年度】実施状況報告書の【集計用シート】

産業廃棄物の種類 コード	名称	計 画 実 施 状 況													②+⑧ 自ら再生利用 を行った量(t)	③+⑨ 自ら埋立処分又は海 洋投入処分を行った量(t)				
		①排出量 再生利用した量 (t)	②自ら直接 再生利用した量 (t)	③自ら直接埋立 処分又は海洋投 入処分した量(t)	④自ら中間処理した量 (t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の残存量 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した量 (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら中間処理した後 自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量(t)	⑩直接及び自ら 自己処理した後の 処理委託量 (t)	委託先による区分 (⑪=①-②-③-④+⑥+⑧-⑨)=(⑫+⑬+⑭+⑮+⑯)								
		(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)	(t)		
0200	建設汚泥(残土除く)		2,650	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,650	0	
0600	廃プラスチック類		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0700	紙くず		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
800	木くず		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1300 ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1322 腐石ボード		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	がれき類		107	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1500 その他のがれき類		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1501 コンクリート破片		24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	1502 アスファルト・コンクリート類		82	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	建設系混合廃棄物		46	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2020 建設系混合廃棄物 (管理型)		5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2021 新築系混合廃棄物		41																	
	合計		2,810	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,810	0	0

(注1) トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であれば小数点以下3桁まで記載は可。
(注2) 上記の産業廃棄物の種類以外の排出実績があった場合は、必要に応じて、直接追加入力することにも、第2面も追加してください。

産 業 廃 棄 物 処 理 計 画 書 の [集 計 用 シ ー ト]

産業廃棄物の種類 コード	排出量 (t)	計 画 状 況											②+⑧ 自ら再生利用 を行った量(t)	③+⑨ 自ら埋立処分又は海 洋投入処分を行った量(t)				
		①自ら直接 再生利用した量 (t)	②自ら直接 処分又は海洋投 入処分した量(t)	③自ら中間処理 した量 (t)	④自ら中間処理 した後の残量 (t)	⑤④のうち 熱回収を行った量 (t)	⑥自ら中間処理 した後の埋立 (t)	⑦自ら中間処理 により減量した (t)	⑧自ら中間処理 した後再生利用 した量 (t)	⑨自ら埋立処分又は海 洋投入処分した量 (t)	⑩自ら埋立処分 した後の残量 (t)	⑪⑩のうち、 最終処分 を行った量 (t)			⑫⑩のうち、 最終処分 を行った量 (t)	⑬⑩のうち、 最終処分 を行った量 (t)	⑭⑩のうち、 最終処分 を行った量 (t)	⑮⑩のうち、 最終処分 を行った量 (t)
0200 建設汚泥(残土除く)	2,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,000	0
0600 廃プラスチック類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0700 紙くず	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
800 木くず	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1300 ガラスくず、コンクリートくず 及び陶磁器くず	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1322 腐石ボード	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
がれき類	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1500 その他のがれき類	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1501 コンクリート破片	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1502 アスファルト・コンクリート類	80	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
建設系混合廃棄物	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2020 建設系混合廃棄物 (管理型)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2021 新築系混合廃棄物	50	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	2,155	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2,155	0

(注1) トン未満は原則として四捨五入。ただし、数字が有効であったばい数点以下3桁まで記載は可。
(注2) 上記の産業廃棄物の種類以外の排出量がある場合は、必要に応じて、直接追加入力することにも、第2面も追加してください。

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項					
(管理体制図) 別紙参照					
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項					
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】				
	産業廃棄物の種類	別紙参照			
	排 出 量				t
	(これまでに実施した取組) 2022年度の取組報告なし。				
②計画	【目標】（今年度末の目標値）				
	産業廃棄物の種類	別紙参照			
	排 出 量	t	t	t	t
	(今後実施する予定の取組) <ul style="list-style-type: none"> 発生する汚泥の種類や排出量、現状の把握をする。 部材積算精度を向上させ、不要部材を抑制する。 現場分別及び、梱包材削減等、分別の指導徹底により発生を抑制をする。 廃棄物の発生が少ない工法の採用 				
産業廃棄物の分別に関する事項					
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 2022年度の取組報告なし。				
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) <ul style="list-style-type: none"> 混合廃棄物に対し、分類を厳格化し、再資源可能なものを取り分ける。 現場での分別指導の徹底 				

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項				
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】（今年度末の目標値）			
	産業廃棄物の種類			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)			
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項				
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t
(これまでに実施した取組)				
②計画	【目標】（今年度末の目標値）			
	産業廃棄物の種類			
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t
(今後実施する予定の取組)				

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項				
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t
	(これまでに実施した取組)			
②計画	【目標】（今年度末の目標値）			
	産業廃棄物の種類			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t
	(今後実施する予定の取組)			
産業廃棄物の処理の委託に関する事項				
①現状	【前年度（令和4（2022）年度）実績】			
	産業廃棄物の種類	別紙参照		
	全処理委託量	別紙参照 t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	別紙参照 t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t
	(これまでに実施した取組) 2022年度の取組報告なし。			

②計画	【目標】(今年度末の目標値)				
	産業廃棄物の種類	別紙参照			
	全処理委託量	別紙参照	t	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	別紙参照	t	t	t
	再生利用業者への 処理委託量		t	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t	t	t
	(今後実施する予定の取組) ・可能な限り優良認定処理業者から選定する。 ・電子マニフェストの推進を図るため、電子マニフェスト対応可能な処理業者から選定し、未導入の業者であれば導入の依頼をする。 ・再生利用が可能である廃棄物については、再生利用業者へ処理委託する。				
※事務処理欄					

(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。